

## 第6回策定委員会議 質疑応答と意見のまとめ

## 【基本構想(案)・全体】

No	発言者	質問・意見	回答
1	五藤	<p>次期総合計画は「市民と共有する」というところがこれまでの総合計画と大きく異なるので、行政用語(専門的術語はやむを得ないが)をできる限り使わず市民にわかりやすい文章にすると共に、内容がどうしても硬くなるだけにできるだけ柔らかい平易な表現にすることを心がけるべきである。行政の文章は敢えて難しい用語を駆使して権威づけようとしたり、あいまいな表現をして責任を明確にしないことが求められるのかもしれないが、市民と共にみんなで地域経営を進めようという自治体では、みんながわかりやすい文章、読む人によって解釈が異なる文章、極端に言うところ中卒程度の子どもでも理解できる表現に努めるべきであろう。</p> <p>例えば、<u>充実する</u>とか<u>適切(適正)に(適切な)～する</u> という用語が頻繁に使われるが、具体的に何をするのか、何が適切だと言うのかわかりにくい場合がある。継続すべき施策のほとんどは適切に充実すべきではないのか。また、<u>検討する</u>とか<u>進める</u>、<u>推進する</u>、<u>努める</u>などもその結果や成果をもう少し断定的に書いた方がわかりやすく、フォローしやすい場合が多い。それらの表現が最適なケースもあろうが、できるだけ読んだ市民にも何をするのか内容がわかりやすい表現にしていきたい。また、散見されるぎこちない表現も読みやすい表現に修正していきたい。</p> <p>文章や表現よりも計画の内容そのものが重要であることは間違いないが、文章や表現も総合計画全体の品格を左右するので、専門家のアドバイスを受けることが望ましい。また、高校生程度の市民に読んでもらって、どこまで理解できるのか検証することも試みては？</p>	<p>ご意見のとおり心がける。文章を簡潔に読みやすくするため、やむを得ず行政用語その他の専門用語を使用する場合は、用語解説で補う。また、同様の観点から、より具体的な表現の可能性を追求する。</p>
2	五藤	<p>基本構想の<u>基本方向</u>でめざすまちの姿を実現するための10年間の基本政策が示され、それを受けて、計画の基本方針と取組で5年間の方針と具体的な取組み策が示されるという関係にあると思う。それぞれの書きぶりが分野によってまちまちなので、事務局で指導調整願って全体のバランスが取れるように配慮していただきたい。事項の基本方針と取組の内容についても同様の対応が望まれる。</p> <p>例えば基本構想の第1節では<u>基本方向</u>もかなり具体的に書かれていてわかりやすいが、第2節～第4節では<u>基本方向</u>と基本計画の取組の体系がほとんど同じ文章になっている場合が多い。いずれも正しいのであろうが、分野ごとのばらつきが大きすぎて、計画全体の品位(内容の品位ではなく計画書としての品位)を落としている。</p> <p>また、「取組の体系」にある各取組が基本計画の8、9ページで一覧できるようになっているが、53ある取組の書き方にもばらつきが多い。</p>	<p>ご意見のとおり事務局が調整し、可能な限り修正した。</p>

【基本構想(案)・第1章】

No	発言者	質問・意見	回答
3	五藤	第1節 1行目 「箕面市総合計画」をはじめとして 「箕面市総合計画」にはじまり	ご意見のとおり修正した。
4	五藤	第1節 4行目 少子高齢化とそれによる本格的な少子高齢化による本格的な 少子高齢化に伴う本格的な	「少子高齢化」と「人口減少」を並列に書いているので、そのままとする。
5	五藤	第1節 7行目 自己責任・自己決定が高まる 自己責任・自己決定が求められる	ご意見のとおり修正した。
6	五藤	第1節 下から7行目 解決していくことが必要です 解決するべきです 解決しなければなりません 解決する必要があります	「解決する必要があります」と修正した。
7	五藤	第2節 1.文末 役割も果たします 役割を果たします 「も」では二次的役割のように読み取れる	ご意見のとおり修正した。
8	五藤	第3節 1行目 「基本構想」、「基本計画」 「基本構想」と「基本計画」	ご意見のとおり修正した。
9	五藤	第3節 基本構想 1~2行目 これを実現するためにめざすまちの姿と基本方向を そこに求められる「めざすまちの姿」とこれを実現するための基本方向を??	第4章の冒頭の文章と整合を図るため、そのままとする。
10	五藤	第3節 基本構想 4~5行目 目標年度 最終年度	「2020年度(平成32年度)までの10年間」とした。
11	五藤	第3節 基本計画 下から4行目 前期基本計画は「中間点における目標値を設定するため」に策定するわけではないので、その部分を削除して、「2011年度・・・までの5年間に実施すべき政策や施策を前期基本計画として策定し、・・・」など?	目標値の設定は前の文章や第4節とのつながりで必要なため「2011年度(平成23年度)から2015年度(平成27年度)までの5年間に実施すべき取組や中間点における目標値を前期基本計画として策定します。」と修正した。
12	五藤	第4節 目標値(成果指標)は計画にあげられたすべての方針や取組を的確に反映できているとは言えないので、目標値と同時に取組の遂行状況も評価すべきである。「取組や目標値が達成できたか・・・」	ご意見のとおり修正した。
		また、「行政評価」によって明らかにするのは間違いないが、現行の行政評価制度がイメージされるので、それとは異なることが理解できるように書くべきである。	「行政評価(政策評価・施策評価)によって」を削除した。
		次のローリングして計画を見直すのも目標値だけではなく基本計画のすべてを対象にすべきではないか。	「目標値については、」という文言を前回削除した。

No	発言者	質問・意見	回答
		なお、達成度の評価・検証とあるが、検証してから評価するのではないか。この表現が一般的ならそれでも良いが。	「評価・検証」と使われることの方が多く、そのままとする。
13	小野	第4節 下から3行目 「基本計画の内容を変更する際には」が削除され、「総合計画の達成度を評価・検証する際には」に変わっているが、市民や学識経験者の意見を聴かずに基本計画が変更されてしまうと取られかねないので、盛り込んだ方がいいと思う。	計画の進行管理を具体的にイメージできるよう、タイトルを「総合計画の達成度の評価・検証」と変更したことにより、内容としてなじまなくなったため削除した。計画を見直す際に市民や学識経験者の意見を聴くことを否定するものではない。

### 【基本構想(案)・第2章】

No	発言者	質問・意見	回答
14	五藤	第1節 2. 4行目 人口減少の進行によって 不要？	労働人口が減少する理由として必要と考える。
15	五藤	第1節 2. 下から3行目 「このような中」この後も何回か出てくる。何となくぎこちない表現だが、適切な用語が思いつかない。省略して日本全体の環境変化の説明から箕面市の説明に移る部分を改行するのが読みやすい？	ご意見のとおり修正した。
16	五藤	第1節 5. 下から3行目 今後ますますボランティア活動に参加する市民も増えてくると 今後ボランティア活動に参加する市民もますます増えてくると	ご意見のとおり修正した。
17	五藤	第1節 5. 下から1~2行目 このような中 ？	削除した。
18	五藤	第1節 6. 4~5行目 市と市民が、情報の共有に基づき 市と市民が情報を共有して	ご意見のとおり修正した。
19	五藤	第2節 箕面の魅力アップ 3行目 魅力づけ 「魅力アップ」でよいと思うがそれが気に入らないなら「魅力を増やす」？	2行下の「箕面の魅力アップ」と言葉が重なるので、「魅力を上げること」とした。
20	五藤	第2節 箕面の魅力アップ 下から2行目 「本市の宝」はここだけしか出てこないのを何を指しているのかわかりにくい。代表的な宝、例えば緑豊かな自然とか落ち着いたところのあるまちなみなど代表的なものを例示した方がわかりやすい。	例示をすると文章自体が長く分かりにくくなるので、「本市の宝を継承していくための」を削除し、文章を修正した。
21	五藤	第2節 「自助」・「共助」・「公助」の役割分担 1行目 「自立した地方自治のまち箕面」とあるが、地方自治のまちではどこの自治体も同じなので、まちづくりの主体は市民と	市民会議の提言書を引用した部分である。「市民自治」は、市民こそが地方自治の主

No	発言者	質問・意見	回答
		<p>明言しているこのまちに相応しいのは、敢えて言えば「自立した市民自治のまち箕面」ではないのか。</p> <p>最近発表された生涯学習基本計画でも「生涯学習は権利であり、市民自治の理念を具体化するものである」となっている。</p>	<p>権者であり、まちづくりや問題解決の主体であるという考え方として広く使われているが、自分の属する居住地域やコミュニティなど限られた中での自治という意味合いもあることから、そのままとした。</p>

### 【基本構想(案)・第3章】

No	発言者	質問・意見	回答
22	五藤	<p>第1節 ~将来都市像に込めた思い~ 1行目 「わがまち箕面」 常に「本市」と言っているのに、ここ基本計画1ページ3行目(「わがまち・みのお」)だけにこの呼び方をしている。良い表現ではあるが何となく唐突感を感じる。</p>	<p>市民会議の提言書では、将来都市像を言い換える言葉として、「わがまち・みのお」の姿、と使用していたが、前回説明したとおり事務局で削除した。ご異論がなかったので基本計画1ページ3行目は削除する。ここでは、もともとの「わがまち・みのお」を生かし、カギ括弧と・を外した一般的な言葉とした上で、「本市」よりも込められた想いが伝わる表現として使用している。</p>
23	五藤	<p>第1節 ~将来都市像に込めた思い~ 下から6行目 密着した部分がしっかりと機能し 密着した機能が(しっかりと)確立し</p>	<p>ご意見のとおり修正した。</p>
24	五藤	<p>第1節 スパイラルアップの構図 住民の定着化 市民会議提言書の通りであるが「化」が必要か、あった方が良いのか、不要か？</p>	<p>「若い世代の流入」の「流入」という言葉に合わせて「化」を削除した。</p>
25	五藤	<p>第1節 スパイラルアップの構図の「箕面の魅力アップ」 第2章第2節に合わせて、「住んでみたいまち」「住みつづけたいまち」の順にする。</p> <p>その上も、第2章第2節では定着が先になっているが流入が先か今の市民の定着が先か？定着化の化は必要か？</p>	<p>ご意見のとおり修正した。</p> <p>流入が先になるよう修正し、「化」は削除した。</p>
26	五藤	<p>第2節 4行目 「国勢調査の結果では」とわざわざ説明する必要があるのか。「死亡数が出生数を上回り、減少局面に・・・」でわかるのではないのか。</p>	<p>「国勢調査の結果では」を削除した。</p>

No	発言者	質問・意見	回答
27	五藤	第2節 下から3行目 「消費者の動向に」とあるが、住宅消費者という意味では間違いはないが転居者または転入者の方がわかりやすい？基本計画第2章第2節も同様。	社会経済状況が消費動向に影響を与え、その影響が転入及び転出を左右するという文脈なので、そのままとする。
28	五藤	第2節 最下行 「効果的な施策」はわかりにくい。適宜人口推計を見直して、その結果に応じた施策を・・・という感じ？	ご意見のとおり修正した。

#### 【基本構想(案)・第4章】

No	発言者	質問・意見	回答
29	澤木	10年後の姿を書こうというのは、市民に分かりやすく具体的に暮らしのイメージがしっかり持てるような形にしようというのが趣旨だったと思うので、状態を述べているというのが、違和感がある。「なまちとは次のようなまちです」というようなリード文があって、こんなまちですとすんなりと言う方が、市民がこれを見たときに分かりやすい。	冒頭に「～なまちです。」という段落を入れ、それ以下の「～なまちになっています。」という部分を削除するなど語尾を修正した。

#### 【基本構想(案)・第5章】

No	発言者	質問・意見	回答
30	高山	基本計画第3章第2節の前文の所では、基本構想を実現するための「参画と協働のまちづくり」と「新たな地域経営」に関する2つの方針は、対比的な概念でおさえているが、基本構想の文面を見ると、協働のまちづくりは新たな地域経営の1つの要素であるというふうには受け取られる。新たな地域経営という概念を整理した方がよい。	基本計画第3章第2節の前文でも対比的な概念として捉えてはいない。「新たな地域経営」は行財政改革の側面から見たまちづくりの方針であり、基本構想第5章第2節の冒頭にもあるように、「協働のまちづくり」と「行財政改革の推進」は相互に補完し合って、本市の発展に寄与する要素である。
31	五藤	第1節 下から2行目 支援の方法を検討します 支援を行います など	ご意見のとおり修正した。
32	五藤	第2節 下から7行目 「仕組みづくりを進めます」では不十分で、「仕組みを早急に確立します」と明確に書くべきである。	一つの仕組みを導入することで完成形とするのではなく、評価手法の検討や仕組みの見直しなど、継続して発展させていくことが必要であることから、そのままとする。
33	五藤	第2節 下から3行目 市民参加の機会を・・・ 市民が参画する機会を または 市民が参加・参画する機会を	「市民が参画する機会を」に修正した。

# 1 安全・安心でみんながいきいき暮らすまち

## 【基本構想（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
34	五藤	まちの姿 14 行目 「自主的な地域の支え合い・助け合いにより消防力の充実が図られる」とあるが、消防力の充実には地域の支え合いや助け合いが最大のポイントなのか？	これからは、消防施設や機械等のハード面の整備と伴に、地域の支え合いや助け合い等のソフト面の充実が重要である。
35	五藤	基本計画でも最初の 1-(1)で「健康は自分で守り」と出てくるが、これは健常者の発想であって、何か病気を持っている人や障害者などやむを得ず自分で健康を守れない市民の目線で見れば大変厳しく温かみのない総合計画と受け止められかねない。 市民会議の提言書も同様の表現なので否定しがたいが、何か工夫した方が良いのではないか。例えば、多少弱くなるが「みんなで健康を守り」とするとか、基本方向(2)の「誰もが支え合って・・・」を(1)にして、高齢者、障害者、子ども以外に何か病気を持っている人も加えるような内容に補正した上で、「健康は自分で守り・・・」を(2)に持って行くなどの配慮が考えられる。	(1)の表題は「みんなで健康づくりを進め、信頼できる地域医療をつくります」とする。
36	高山	(2)ここで述べているのは高齢者や障害者のことなので、「高齢者や障害者も安心して暮らせるまちをつくります」の方が内容をすべて語っている。	「高齢者や障害者市民も誰もが安心して暮らせるまちをつくります」とする。
37	五藤	基本方向の見出しについて全面的な見直し提案があり、事務局から策定委員会議で検討するよう指示があるが、全面的な見直しをしない場合でも「(3)みんなでまちの安全・安心をつくります」では基本方向の内容をイメージできないのではないか。	「みんなで支え合って暮らしの安全を守ります」に修正する。 基本計画関連修正箇所 ・目次 ・第3章第1節1・1-(3) ・第4章1-(3)見出し ・第4章1-(3)直下枠内
38	五藤	(3) 5 行目 「市民と連携して消防行政の推進をめざします」は間違いではないが、読んだ市民にはわかりにくい。例えば、市民の協力を得て火災や救急への備えを充実するなど、もう少し具体性のある書き方が理解しやすいのではないか。	ご意見のとおり、「市民の協力を得て火災や救急への備えを充実します。」とする。
39	五藤	(4) 最下行 消費や食の安全というのは犯罪性を帯びた消費者被害が多発しているのに、雇用問題とひとくくりにせず、むしろ(3)の安全安心に入れる方が自然ではないか。行政の現行組織を前提にすると無理なのかもしれないが。	人は労働の対価として賃金を得て、そのお金で消費生活を送っており、両者が健全に行えることが、このタイトルである、豊かな暮らしの基礎であると考え。

No	発言者	質問・意見	回答
			また、(3)のタイトルを「みんなで支え合って」と変更したことから、個人の自助力が基本となる消費や食を位置付けることに違和感がある。

### 【基本計画（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
40	五藤	1-(1) 2. 1行目、4. 【行政】1行目 「非営利団体」NPOに統一しても良いと思うが	「地縁団体、NPO」と修正した。
41	五藤	1-(1) 4. 【行政】 行政は単に支援するだけではなく、市民が健康づくり運動を展開するための基盤を確立しないと市民は動かないのではないかと。	「市民が健康づくり運動を展開するための基盤確立」とは何をさすのか、具体的にはイメージできない。ただし、市民主体の健康づくり運動の展開は重要なので、「支援」よりも積極性を出すため「市民や地縁団体、NPOなどによる健康づくり活動を促進します。」に修正した。
42	五藤	1-(2) 3. 「高齢者施策を推進します」「障害者施策を推進します」は正しいが、もう少し具体性のある表現にした方が良い。	ご意見を踏まえ、「高齢者が安心して暮らせる施策を進めます」「ノーマライゼーションに基づく障害者市民施策を進めます」に修正した。
43	五藤	1-(2) 3. 高齢者を福祉の面からのみ捉えているが、基本構想5ページ9行目以下に「高齢者の社会参加を促進し・・・」という課題を掲げているのだから、そのことも高齢者施策に加えるべきではないか。市民の役割にも加えるべきである。	高齢者の社会参加については、労働、生涯学習、地域コミュニティへの参加などさまざまな側面があり、それぞれの基本方向の中で触れているため、ここはそのままとする。
44	五藤	1-(2) 5. グループホーム、ケアホーム利用者は対象者数が少ないので、高齢者対策の指標として最適か。数倍の受け入れ体制を整備するというならわかるが。特養や老健の待機者数が多いことなどが問題ではないのか。取組 に関する指標が必要。	ここでいう「グループホーム、ケアホーム」は 障害者対策の指標であり、 高齢者対策の指標ではない。また、 の指標は「困ったときに相談相手がない高齢者の割合」である。誤解のないよう文言と順序を修正した。
45	五藤	1-(3) 3. 「最新情報を共有して災害防止策を講じると共に、その限界と・・・」というように災害防止策を講じることが重要なのではないかと。	「最新情報を共有して災害防止策を講じるとともに、その限界と応急対策にかかわる情報を理解し」と修正した。

No	発言者	質問・意見	回答
46	五藤	1-(3) 3. 地域の防犯を 地域の防犯活動を	ご意見のとおり修正した。
47	五藤	1-(3) 4. 【市民】市民は消防団に積極的に参加することが求められているのか。「自治会活動などに」はここでは「自治会などの防犯活動に」ではないのか。	<p>消防団の確保については、「自分たちのまちは自分たちで守る」という市民参加の積極的な活動が求められており、これからは広く若い世代に積極的に参加してもらう必要がある。</p> <p>自治会活動だけをとらえた自治会ではなく、自治会活動全体を通して、顔の見えるつながり・コミュニティ(昔ながらの近所つきあい)が防犯・防災など、安全・安心を築き上げるうえで、これからは必要とされる。</p>
48	五藤	1-(4) 1. 下から4行目 豊かで安心した暮らしができるよう 安心して豊かに暮らせるよう	ご意見のとおり修正した。
49	五藤	1-(4) 5. シルバー人材センターは登録してもほとんど仕事をしない人も多いと聞くので、実際に就労できた延人数がわかれば、その方が実体を表すと思う。	「シルバー人材センターの会員数」は、国でも全国で100万人にする目標を立てており、他市比較もしやすい指標であるため、原案でいきたい。なお、就労できた延人数は、100,898人日で、数値としてイメージがつかみにくい。

## 2 子どもたちの夢が育つまち

### 【基本構想（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
50	五藤	表題が「子どもたちの夢が育つまち」とあって子どもが主体の節と受け止められるのに、いきなり「すべての市民が」と出てくることに違和感を感じないか。「子どもも大人もすべての市民が・・・」とするとか、この節には生涯学習など大人も対象になっているので、例えば表題を「子どもも大人も育ち合うまち」とか「子どもも大人もともに育つまち」とするなどひと工夫あっても良いのではないか。	表題は「子どもも大人も育つまち」とし、人権の段落の書き出しは「子どもも大人もすべての市民が」とする。
51	五藤	まちの姿 3 行目 実現に向けた環境が整うレベルではなく、「・・・支援も充実し、また、真の男女協働参画社会が実現しています」というレベルになっていなければならないのではないか。	本市単独で実現できるものではなく、断定的表現は控えたい。また「真の」という言葉もあいまいなので、現行どおりとする。
52	五藤	まちの姿 4 行目 環境づくりがさらに進んでいきます 環境が整っています	「環境づくりも進展しています」と修正した。
53	五藤	まちの姿 7 行目 取り組みが進むことには違いないが、その結果「(市民・行政による地域ネットワークが形成されて、)子どもに対する虐待もほとんど見られなくなり、子どもたちが安全かつ豊かに育ち、子どもも大人もともに育つまちになっています。」というように取り組んだ結果をまちの姿として表した方が良い。	冒頭に「子どもたちが安心かつ豊かに育つための環境づくりが進み、子どもも大人も、ともに育つまちです。」という、まちの姿を表現した一文を追加した。
54	五藤	(2) 1 行目 家庭・地域における 家庭や地域における	ご意見のとおり修正した。
55	五藤	(3) 1 行目 「系統的に取り組めます」 系統的にというのが市民にわかりにくい	「系統的に」を削除した。
56	五藤	(4) 「学びを生かせる」 <u>活かす</u> を <u>生かす</u> に変更したが、最近策定された箕面市の生涯学習推進基本計画でも <u>活かす</u> になっているので <u>活かす</u> で良いのではないか。統一すべきである。	「生かす」と「活かす」が混在していたため、常用漢字音訓表にない読みである「活かす」を「生かす」に統一した。

No	発言者	質問・意見	回答
57	五藤	(4) 内容に間違いはないが、多様な学習機会とか拠点の整備などは、ソフト、ハードの両面から学べる環境を改善するというような内容にまとめてもいいかもしれない。また、生涯学習基本計画にある「学ぶ権利」についても基本方向で触れられないか。	生涯学習における自主性、多様性、地域環流の3つのポイントにまとめた。ハード面はいずれにも関わる課題であり、とけ込ましにくく別立てとした。また、これら全体を通じて「学ぶ権利」の保障であり、基本方向には、子育てや学校教育、人権などが併記されている構成になっており、生涯学習の項目のみに「権利」を表記すると整合性が崩れるので触れないことにする。
58	五藤	(4) 下から2行目 なぜ「学びを生かす」と「 」で括っているのか。箕面市で一般にこういう合言葉が使われているのか（生涯学習基本計画に「地域に活かす 学びを活かす」と書かれてはいるが）、「学んだことを地域で活かします」で充分と思うが。	「学んだことを地域で活かします」と修正した。

#### 【基本計画（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
59	五藤	2-(1) 3. 基本方針と次ページの取組の内容はほとんど同じことを書いている。事務局でそれぞれの書き方の原則やモデルを示した方がよい。	取組の内容を修正した。
60	五藤	2-(1) 4. 【市民】1 行目 性別だけを取り上げるのではなく、書くなら基本構想 13 ページの最初のような「国籍、性別、年齢にかかわらず」とした方がよい。	これは男女協働と国際化の課題を分けて箇条書きしたもの。左の意見のとおりだと、国際化だけが二重に表現されることになる。
61	五藤	2-(1) 4. 【市民】1 行目 教育 ここでは場を表すなら「学校」か。「教育」の方が意味は広いが。	「学校」に修正した。
62	五藤	2-(1) 5. 外国人市民相談件数 前回は指摘したが目標達成のために努力すべき指標になるのか。人権調査などで、例えば「人権を侵害されていると思う外国人の割合」などは出せないのか。行政委員会及び付属機関の女性委員の割合は35%を超える目標を設定しても適任者がいないということなので、それが事実ならやむを得ない。しかし、追加意見のまとめにあるように2010年までに全行政委員会、付属機関及びそれに準ずる機	外国人市民アンケート調査は平成9年度に実施した(4言語対応で回収率37.9%)が、財政事情から考えて、前回のよう調査を今後実施できる可能性は低い。従って、国際交流協会等の既存相談事業を通じて、外国人市民のニーズ把握をするのが近道であり、そこから人権侵害の実態も一定つかめると考えている。

No	発言者	質問・意見	回答
		関に 30%の女性を登用するという計画があるのに審議会だけでも女性不在の審議会が 10 もあるというのは理解できない。この計画が実行できない懸念があるなら、2015 年には全行政委員会、付属機関及びそれに準ずる機関に 30%以上の女性を登用するという目標を設定すべきである。総合計画策定委員会議も女性不在で、女性市民の目線を尊重できているのか不安が残る。	女性委員の割合は女性不在の機関の解消を含めて 35%としている。なお各々の具体的な指標については男女協働参画推進計画に盛り込む予定。
63	五藤	2-(2) 1. 4 行目 新市街地・既存市街地における今後の・・・ 地域別に今後の・・・	新市街地及び既成市街地別に児童数の状況を把握しているため、現状のままとする。(修正なし)
64	五藤	2-(2) 3. 3~4 行目 「また、学童保育の・・・」は保育所のことを指しているのか学童保育のことを指しているのかわかりにくい。後者であれば「また、学童保育も・・・」の方がはっきりする。その場合も入所というのか。	「また、学童保育も・・・」に修正した。
65	五藤	2-(2) 3. 「多様な自然体験、社会体験を可能にする生活環境の形成を進めます」は立派な取り組みだが、生活環境の形成と言われても市民には何をするのかわかりにくい。具体的に書かないなら「多様な自然体験・社会体験の機会を増やします」程度では？	「多様な自然体験、社会体験ができる活動の場や機会を増やします。」と修正した。
66	五藤	2-(2) 4. 各主体の主な役割の「主体」の区分も一定の基準を設けるべきである。ここでは【市民】がなくて【保護者・家庭】になっているが、【市民】ではまずいのか。【事業所・企業】も他では、【事業所】であったり【事業者】であったりまちまち。【自治会や NPO など】というのも多いが、自治会に限定せず【地域の団体(または地縁団体)や NPO など】(42 ページ)で統一しては？63 ページには【市民・行政が協働】というのも見られる。	一定の基準として【市民】【自治会や NPO など】【事業者】(今回「事業所」から変更した)【行政】の 4 つを設定しているが、この分け方ではうまくあてはまらないものについては、基本方向ごとに検討し、最適なものを設定している。子育ては家庭を中心に位置づけていることから、【保護者・家庭】としている。 【自治会や NPO など】については、自治会に限定しているわけではなく、地縁団体の代表的なものとして例示している。

No	発言者	質問・意見	回答
67	五藤	2-(2) 5. 保育所の待機児童数は時期によって差異があるので、常時なのか年度末(3月の退所前)なのか注記すること。 取組 に関する指標の追加。	保育所の待機児童数には、「(年度当初)」を追記した。 取組 の指標として「子どもが参加できる場や機会の数」を追加した。
68	五藤	2-(3) 2. 1行目 基本方針に学校図書館を利用する事業、食育に関する授業など具体的な取組まで書かれているにもかかわらず、相変わらず子どもの権利や意見、子どもの目線を尊重する方針が見られない。「質疑応答と追加意見のまとめ」13ページ最下段には子どもの目線で考えていくとあるように、基本方針や取組にもその方針と取組を書きこむべきではないか。市民会議の提言も尊重していただきたい。	教育施策全般において子どもの目線で考えていくことは大切な視点と考えているが、現時点でそのための具体的な取組を想定していないので、記載は困難である。
69	五藤	2-(3) 4. 【市民】最下行 役割を果たす主体としてNPOなどもあるのではないかと。事実学校教育に協力しているNPOも存在している。	NPOを追加して【市民・NPO】とした。
70	五藤	2-(3) 5. 校庭の全面芝生化は結構かと思うが、教育環境の整備とはいえ計画スタート時点ですでにかなり進んでいるので指標としては不要ではないか。 「新体力テスト」同様に全国学力テストの結果も成果目標にあげた方が良いのではないかと。 小学校高学年の教科専任制実施率の向上は望ましいが、それは手段なのでその結果どういう成果を求めているのか、その成果を指標化すべきである。 取組 に関する成果指標は？	今後、数年で100%になるため、芝生化は削除する。 耐震化率も平成22年度末で100%になるため、削除する。 学力テストの結果も成果目標にあげることとする。  取組 については、学校協議会の開催数とする。
71	五藤	2-(4) 5. 教育委員会主催講座の満足度も結構だが、36頁の取組「市民が自主的な生涯学習活動を活発に行います」の成果目標として市民企画講座の開催回数などを取り上げてはどうか。	市民企画講座は「春・秋の講座」関係の予算の範囲内で実施しており、成果目標としては用いにくいので設定しない。

### 3 環境共生さがけのまち

#### 【基本計画（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
72	中井	3-(1) 2. 4～5行目 ごみの発生抑制、再利用、再資源化 3R（ごみの発生抑制、再利用、再資源化）	ごみの3R（発生抑制、再利用、再資源化）に変更した。 なお、これに合わせて基本構想の基本方向も変更した。 また、再利用を再使用に統一した。
73	五藤	3-(1) 3. 「市などが適正に処理します」は間違いないがどう処理するのか明記した方が市民にわかりやすい。市でも再利用再資源するというなら、その実績を示して市民が如何に再利用再資源をせずに廃棄しているかを明確にすべきではないか。基本構想15ページにも同様の表現があるが、構想ではやむを得ないか。	「市などが適正に処理します」については、「公害防止等に配慮しながら焼却や埋立を行うなど適正に処理します」と明記した。
74	中井	3-(1) 4. 【事業者】最下行 廃食用油や生ごみなどのバイオマスの有効活用 廃食用油の石鹼原料、バイオディーゼルへの有効活用、生ごみの有効活用	「バイオディーゼル」については、本市の実施例では収集車の機器の破損が生じるなど課題が多く、現状では、本市としては安定した技術とは判断しがたいため、一般的なバイオマスという言葉でまとめた。
75	五藤	3-(1) 5. 温室効果ガス発生削減目標を、他の計画の達成度ではなく、定量的に設定できないか。重要な指標であり、この達成度が他の自治体に比べて高まることが環境さがけのまちに相応しいのではないか（それだけではないだろうが）。当面現状が不明なら仮の目標を設定して、議会審議までに必要あれば修正すればよいのではないか。 ごみについてはごみ排出量（市の回収量の総量または市民一人当たり）を成果指標に掲げるべきである。仮の目標でも設定していただきたい。	温室効果ガス発生削減量については、第二次快適環境づくり計画において目標値を決定したいと考えているが、その時期については、平成22年12月頃に素案を決定し、平成23年1月頃からパブリックコメントを行いたいと考えており、間に合わない。 また、ごみの減量目標についても、平成24年度までのごみ処理基本計画（改訂版）が3年を経過したところであり、施策試案の実行状況と資源化・減量率等の把握を行いながら、最終年度に次期の目標値を決定したいと考えている。
76	五藤	3-(2) 1. 11～12行目 取組を活発にし分散・点在しがちな 取組を活発にし、分散・点在しがちな	ご意見のとおり修正した。

No	発言者	質問・意見	回答
77	五藤	3-(2) 3. 「緑の都市景観を形成し、」 緑の問題は 4-(1)、4-(2)にも出てきて、同じことを違った切り口で取り上げているのでその区分が難しいが、ここでは環境保全の目的でみどりを語り、景観の要素としての緑は 4-(2)で語る方がすっきりすると思う。	現状のままとする。
78	五藤	3-(2) 3. 積極的な行動を実行します (積極的に) 行動します	「積極的に行動します。」と修正した。
79	五藤	3-(2) 3. 上下水道事業の経営を進めます 上下水道事業を経営します	ご意見のとおり修正した。
80	五藤	3-(2) 3. 3 行目 経営確保を推進します 経営をします 経営を行います	「経営を行います。」と修正した。
81	中井	3-(2) 4. 【地域の団体やNPOなど】 学校の校庭の芝生化での緑地化の推進。を入れてはいかがでしょうか？ 箕面市内の学校で進行している取組でありますし、より具体的な事例であります。	【行政】の役割として、「市街地の緑化」、「環境共生型建物の普及」に包含しているので、個別の例示だしは行わなかった。
82	五藤	3-(3) 1. 下から 2 行目 「市財政への影響が懸念されます」とあるが、懸念されるどころか財政への影響があることは前提で進めているのだから、この課題については財政負担が過大になれば実現しない可能性も秘めていることを明確にすべきである。取組の欄に明記しても良いが。	基本構想でまず「財政負担に十分配慮して慎重に取り組み」と触れて、それを受けて、基本計画の現状と課題というタイトルの元では「市財政への影響が懸念されます」としている。懸念されるからこのように進めていくということまで、課題の中では書きにくいので、取組の中で「過度な財政負担とならないよう」に進めていくとしている。タイトルに応じて書き分けている。
83	五藤	3-(3) 5. 自転車道ネットワーク化計画は重要な施策であるが、最上位計画と言っている総合計画の指標に個別計画の達成度を使うのはおかしい。自転車の道として整備された総延長距離とか、その結果減少するはずの自転車事故件数などを指標にした方が良いのではないか。	成果指標を「自転車のみちネットワーク化計画の整備延長」に修正した。

#### 4 「箕面らしさ」を活かすまち

##### 【基本構想（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
84	五藤	まちの姿 「また」が多い。	「また」を「さらに」に変更するなど修正した。
85	五藤	まちの姿 3~4 行目 次世代に引き継ぐまちになっています 次世代へ引き継がれています	文章そのものを見直した。
86	五藤	まちの姿 下から 3 行目 産業誘致について書かれているが、そういう方針があるなら基本方向や基本計画でも触れた方が良いのではないか。	先端産業の研究開発施設の誘致について、大阪府では、府内の指定した地域（市町村単位）に進出する企業に対し、家屋等の取得に係る補助制度を設けているが、その地域指定のためには、総合計画等で誘致を位置づけておく必要がある。 本市の産業の活性化、新たな雇用機会の創出に寄与し、地域の活性化が期待できることから、基本構想に記載しているが、企業誘致に関する具体的な取組を行ってはいないため、基本計画には記載していない。

##### 【基本計画（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
87	五藤	4-(1) 1. 下から 2 行目 みどりへの関わりへとつなげていく みどりに関わる	ご意見のとおり修正した。
88	五藤	4-(1) 3. 「山間・山麓部の箕面ブランド化を推進し・・・」 ここではその前の基本方針に「箕面ブランド」がでてくるのでわかるが、まず 10 ページのツリーに出てくるので、そこでもわかりやすい表現にした方が良い。「山間・山麓のみどりを箕面のブランドとして誇れるものにします」？ 守るでは物足りないので良い表現が思い当たらないが。	ご意見のとおり修正した。
89	五藤	4-(1) 3. 河川を適正に維持管理し 河川に関するあらゆる施策を含めようという意図はわかるが、硬すぎるので再考できないか。美しい河川を守り？ 河川をきれいにして？	「美しい河川を守り」と修正した。
90	五藤	4-(1) 4. 【市民】1 行目 日々の暮らしを営むよう努めます 不要？	「、日々の暮らしを営む」を削除した。

No	発言者	質問・意見	回答
91	五藤	4-(2) 1. 現状と課題の説明が少しくどいのではないかと親切に書かれているし、内容もその通りであろうが、ロードサイドショップやチェーン店まで引用せずもう少し簡潔に書けないか。 各基本方向の「現状と課題」に関する記述にばらつきがみられるので、全体のバランスを考慮して見直した方が良い。	具体的でわかりやすい表現にと考えるので、現状のままとする。
92	五藤	4-(2) 2. 2行目 ……の協働により進めます ……が協働で進めます	「……の協働で進めます」と修正した。
93	五藤	4-(2) 2. 3行目 都市計画などの手法を活用し 不要?	あった方が、具体的でわかりやすい表現と考えるので、現状のままとする。
94	五藤	4-(2) 2. 6行目 地域の特性を伸長し 地域の特性を伸ばし または 地域の特性を活かし	「地域の特性を伸ばし」と修正した。
95	五藤	4-(2) 3. 「景観計画及び都市景観条例を適切に運用し」計画や条例を適切に運用することはどんな施策でも当たり前のことなので、現在その運用に特に重大な問題がない限り、わざわざ書く必要はないと思う。	この取組は本市独自のものであり、他市にない個性的な取り組みであることから、このことは書く方が市民の周知にもなり、わかりやすい。
96	五藤	4-(2) 3. 3行目 彩都といった 彩都などの	ご意見のとおり修正した。
97	五藤	4-(2) 3. 1~2行目 「これまでに形成されてきた良質な住宅ストックを有効に活用するため」その通りだが、何となく大げさな表現。	「形成され」を「造られ」に表現を改めた。
98	五藤	4-(2) 4. 【市民】4行目 「住環境やまちの姿に関心を持ち……」と4つ目の「住まい周辺の景観や住環境に関心を持ち……」の二つの役割は一つにまとめては?	ご意見のとおり一つにまとめた。
99	五藤	4-(2) 4. 【自治会やNPOなど】1~2行目 環境を確認する様な取組 環境を確認できる取組	「環境を確認する取組」と修正した。
100	五藤	4-(2) 4. 【自治会やNPOなど】3行目 ルールづくりを検討します ルールをつくります	「ルールを検討します」に修正した。
101	五藤	4-(2) 4. 【行政】7行目 目指します めざします	ご意見のとおり修正した。
102	五藤	4-(2) 4. 【行政】下から7行目 「市民や事業者の主体的な……」では、ほとんどすべての分野別計画に共通するので、どんな取組を支援するのか明示した方が良い。	【行政】1点目と同主旨なので、指摘された項目は削除した。
103	五藤	4-(3) 4. 【行政】3行目 推進する仕組みづくりを行います 推進する仕組みを作ります	ご意見のとおり修正した。
104	五藤	4-(3) 5. 地域に根ざした文化の継承を指標化できないか。	現状では想定できない。具体的な案があればご提示いただきたい。

No	発言者	質問・意見	回答
105	五藤	4-(4) 1. 1行目 出だしの「本市の・・・については、」は不要。 「まず観光において、」 「観光については」または「一般に観光は」または「近年の」を前に持ってきて「近年の観光は」	第5回後に澤木委員から指摘があり修正した部分であるのでそのままとする。(第6回資料4参照)
106	五藤	4-(4) 2. 1行目 基本方針の「市民・事業者・行政などがそれぞれの役割を果たしつつ、互いに連携することにより」というのはほとんどの基本方向の基本方針にも当てはまることなので、敢えて言う必要はないのではないかと。例えば、農業にも若干触れて「地域の特性を活かした観光・産業の振興を図り、農業の継続にも配慮します」など。	大切な部分で強調したいのであえて記載している。後段部分については、ご意見のとおり修正した。
107	五藤	4-(4) 3. に桜井駅前のことは触れなくて良いのか。現行総合計画に出ているが全く進んでいないので継続して取組むのか(その場合も地権者の協力など前提条件が必要であろうか)? 地域別施策に記載する程度で逃げるしかないのか?	お見込みのとおり。
		取組の各種方策について誰がやるのかわかりにくい。	各主体の主な役割の所で整理している。
		また、「(利用者である)市民も、商店街の魅力が(、単に商業機能を果たすだけでなく、)地域社会・・・」の文も( )内を省略して簡潔な表現にしてはどうか。	ご意見のとおり修正した。
108	五藤	4-(4) 4.【市民】3行目 市民が積極的に朝市や 「積極的に」は朝市の前に来るのではなく「協力し」の前に来るのではないかと	ご意見のとおり修正した。
109	五藤	4-(4) 4.【自治会やNPOなど】「新たな事業の実施主体」とあるが自治会やNPOが観光や産業の事業主体になるのか。その場合取組の中のどの事業なのか明記しないと理解できない。自治会やNPOは市民同様新たな魅力づくりや観光・産業の活性化に対する協力者であって、事業の実施主体となりうる場面は少ないと思うが。	将来的には実施主体になるよう、単なる協力者に止まらないものと考えている。

## 5 誰もが公共を担い、みんなで作るまち

### 【基本構想（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
110	五藤	まちの姿 3 行目 「地域コミュニティを活性化させるために」 活性化が目的ではないので 「地域コミュニティが活性化して」	ご意見のとおり修正した。
111	五藤	まちの姿 7 行目 「住民団体」 19 ページ 13 行目や基本計画では「地縁団体」としており、地縁団体に統一しては？ 地縁団体と言っても具体的に何を指しているのかわかりにくいので、用語解説に加えた方がよい。	地縁団体と表記するのは、NPO と区別する場合。両者をまとめて表記する場合は、「地域の各種住民団体」の用語を使用したか、 “住民”の定義と“NPO”の概念はなじまない場合もあるので、 「地域の各種市民活動団体」と修正。「地縁団体」は用語解説に追加した。
112	五藤	(1) 1 行目 自治会活動の活性化は重要な課題であるが、助け合い支え合いは自治会だけでは輪が広がらないので、もう少し広くとらえてはどうか。自治会など地域住民（または地縁団体）の活動 とか。	「自治会をはじめ地縁団体」と修正。
113	五藤	(3) 2 行目 市民の意見をより一層政策形成の過程に反映します。政策形成の段階から市民の意見を掌握できる仕組みを作って、市民の意向を市政に反映するのではないか。	市民意見の反映段階や手法等については今後の検討課題である。現段階では政策形成過程の一連の中での参加・かわりが必要という認識のもと、このように表現している。

### 【基本計画（案）】

No	発言者	質問・意見	回答
114	五藤	5-(1) 1. 2 行目、3. 「住民団体」は基本構想の意見に同じ	基本構想と同様に「市民活動団体」と修正した。
115	五藤	5-(1) 3. 1 行目 地縁団体への市民参画 ここは「市民参加」でよいのではないか	現状で良いと考えている。
116	五藤	5-(1) 3. 3 行目 SNS 使い慣れていない市民にはわかりにくいので（ ）内に日本語も表示しては？用語集で説明されているが、その都度用語集を参照しては煩わしいので、正しく理解されない懸念がある。	「SNS（地域掲示板）」と修正した。
117	五藤	5-(1) 4. 地域住民に信頼されるリーダーやコーディネーターの育成成否がポイントになるので、そのための市民や行政の役割も明記した方がよい。	既存の文書により読み込めると考える。

No	発言者	質問・意見	回答
118	五藤	5-(1) 4. 【事業者】 CSR 使い慣れていない市民にはわかりにくいので日本語で表示しては？	「CSR（企業の社会的責任）」と修正した。
119	五藤	5-(2) 2. 4 行目 「公共の分野を市民と行政がともに開拓します」は協働フロンティア事業とか、いわゆる「新しい公共」(66 ページ)のことを言っているのだろうが、ちょっとわかりにくい。また、この方針に沿った取組も入れた方が良くはないか。	基本方針の部分を、市民活動団体の自立化に向けた取組についてわかりやすく記述し直した。
120	五藤	5-(3) 2. 下から 3 行目 「市役所の組織力を強化する」という語が何度も出てくるが、意味するところはわかるものの、具体的に何をしようとしているのが市民にはわかりにくいのではないか。 表題に「健全な財政を次世代に継承します」と言いながら、基本方針や取組には財政に触れていない。6 頁の財政運営の考え方にも書かれているが、ここで健全化の成果指標を掲げていることでもあり、基本方針と取組にも明記すべきである。	情報共有、政策形成能力・人材育成等に努めながら職員の意識改革と職員個々の能力の向上をはかることにより、市民協働のための組織づくりをめざすものである。現状と課題の中で、効率的な自治体経営について述べており、基本方針や取組の体系により、この課題を解決することで、必然的に財政の健全化が次世代に継承される。このため、基本方針と取組に敢えてまた財政について明記する必要はないと考える。
121	五藤	5-(3) 3. 1 行目 行政だけが「公共」を独占するのではなく 行政だけが「公共」の担い手ではなく	『行政だけが「公共」の担い手ではなく』と修正した。
122	五藤	5-(3) 3. 下から 2 行目 BPR 使い慣れていない市民にはわかりにくいので日本語で表示しては？	「BPR（業務過程改善）」と修正した。また、用語解説でも詳しく説明している。 <b>Business process Reengineering の略</b> 業務活動を根本から考え直し、根本的革新を行う経営手法。情報システムを取り入れるなどして、業務の効率化を図ること。
123	五藤	5-(3) 4. 【市民】【行政】 市民の役割は大変重要であるが、現在多くの市民にこのような意識は根付いておらず、市民に意識を根付かせる施策が行政の役割として大変重要である。従って、単にプロデューサーとして機能するだけでなく、市民や地縁団体、	市民の意識の向上や地域コミュニティ、NPOと行政との連携を進めるための取組については、5-(1)、5-(2)の取組、各主体の役割の所で

No	発言者	質問・意見	回答
		NPO などの動機づけのための具体的な仕掛けや仕組みを確立することを行政の役割に加えるべきである。	記述している。
124	五藤	5-(3) 4. 【自治会やNPOなど】3行目 「地域のさまざま」コミュニティ 何度も出てくるので、ここでは「これらの」コミュニティにでもしては？	「これらのコミュニティ」と修正した。
125	五藤	5-(3) 5. 基金残高と市債残高は対で示されるべきなので、地方債残高を指標に入れる。 常勤職員定数は病院などを除く普通会計ベースで目標値を設定し、10年後には現状比20%減を目標とすべきである。箕面市は類似都市に比べ市民一人当たりの職員数が多いこと、人件費比率が40%を超えて極めて高いことが問題なのだから、それを是正するために経営の効率化を図るのではないかな。	市債残高については、現時点での地方財政対策等の外的な不確定要因が多いため入れるべきでないと考える。(例えば、臨時財政対策債が継続されるかどうかによって、1年で約10億～15億、5年で約50億～75億(返済が3年据え置きのため)の変動要因となる。
126	五藤	5-(3) 5. 市政に市民の意向が反映されていると考える市民の割合を50%以上にするという目標設定は大変重要である。これを達成するためには市民と行政の信頼関係を構築する必要があり、そのためにも協働を推進する核となる仕組みやシステムの早期確立は欠かせない。	協働を推進する核となる仕組みとして「みのお市民活動センター」が位置づけられており、その機能強化については5-(2)で記述している。また、地域においては、小学校区を基本とした仕組みの構築について5-(1)で記述している。

【基本計画(案)全体】

No	発言者	質問・意見	回答
127	五藤	<p>書き方に苦慮されたことと思うが、基本方針は基本方向に見合った政策レベルの取組方針や目標を簡潔に書き、取組の内容では基本方針を実現するための施策レベルの具体的な対応策を書いて、しかも取組む主体が計画通り実施できているかどうかを評価の段階でフォローできるような書き方をすべきである。これまでの総合計画のように、あとから見てやったのかやってないのかわからないようなあいまいな表現はできるだけ避けるべきである。基本方針と取組の内容は必ずしも1対1でまとめる必要はない。</p> <p>例えば基本計画 26～27 頁の人権に関する政策の部分を見ると、基本方針と取組の内容がほとんど同じ表現になっており、何のために項目を分けているのかよくわからない書き方になっている。他にも上記基準に沿っていないケースがかなり見られる。</p>	<p>ご意見のとおり事務局が調整し、可能な限り修正した。</p>
128	五藤	<p>会議でほとんど検討されなかったのは残念であるが、当初の方針では審議会へ移った後でも指標だけは引き続き煮詰めていくということだったので、各委員とも充分検討できていなかった面があるのではないかと。何故方針を変更して議論を避けることになったのか。策定委員会のような場で議論を尽くすというのが協働のまちづくりの第一歩だと思うが。</p> <p>指標以前の課題として、計画化された各取組が計画通り実施されているかが問われるべきであるが、成果指標はその実施状況を客観的に評価できるので、各取組に1つ以上(できれば2つ位は?)の成果指標を付けることとしていただきたい。</p>	<p>指標についての議論を避けることになったという経過はないと認識している。審議会に諮問した後は、審議会でご議論いただくことになる。指標の数は、原則各取組に1つ以上としている。</p>

【基本計画(案)・第1章】

No	発言者	質問・意見	回答
129	五藤	<p>第1節 1行目 (「わがまち・みのお」の姿)に間違いはないが、「わがまち・みのお」という用語がどこにも出てこないのに( )書きで入れる必要があるのか。</p>	<p>前回説明したとおり、基本構想で削除したため、こちらでも削除する。</p>

【基本計画(案)・第2章】

No	発言者	質問・意見	回答
130	五藤	第1節(1)7行目 「環境形成帯」 箕面市では以前から使われているが一般化した用語なのか(澤木先生に要確認)。そうでなければ用語解説に加えた方が良い。	用語解説に追加した。
131	五藤	第1節(1)13行目 商業・業務機能が集積しているとあるが、市民活動センターや市営駐車場はあるものの業務機能が集積しているとは言えないのではないか	「・業務」を削除した。
132	五藤	第2節8行目 随時住宅供給が進み 「随時」よりは「徐々に」とか「継続して」とかあるいは「住宅供給が進みつつあり」では?	「徐々に」と修正した。
133	五藤	第2節下から2行目 西部、中部地区は2022年から人口減に転じるのではなく、もっと以前から転じているので、誤解されないような表現に変えるべきである。	「2022年度(平成34年度)以降は、東部地域でも減少に転じ、北部地域を除くすべての地域で人口減少が進む」と修正した。
134	五藤	第3節 グラフ 経常経費ベースの財政見通しが表示されているが、これまでの市民への説明は常に一般会計(普通会計)ベースであり、緊急プランでは経常収支比率に焦点を当てたこともあって経常一般財源ベースの説明がなされた。そのため多くの市民は財政の全体像がよく理解できていないのではないかと。箕面市全体の財政運営の健全化が課題なのだから、全体像を理解できる数値が示されなければならない。 また、経常経費充当一般財源を歳出とするならば、基本計画対象期間は人件費、その他の義務的経費、物件費、投資的経費、公債費、その他程度の大分類で示すべきである。 財政の健全化は今回の総合計画の主要課題であり、どのように健全化させていくのか市民にも見える姿を計画化し、毎年ローリングして2017年までを見直すべきである。 (参考)他市の総合計画の財政フレームの例(普通会計) 歳入：市税、国・県支出金、市債、その他、合計 歳出：人件費、扶助費、公債費、投資的経費、その他、合計	経済動向が不透明で、歳出の見通しを立てることは現時点では極めて困難である。 市民目線で見ても分かりやすい記述になるよう修正した。

【基本計画(案)・第3章】

No	発言者	質問・意見	回答
135	五藤	第1節 4-(2) 「安心して住み続けら・・進めていきます」41頁の取組の体系にある通り「・・・進めます」とする。個々のツリーに出てくる取組は第4章の取組の体系と全く同文で良いと思うので、そうなっているかチェック願います。	ご意見のとおり修正し、最終的に計画の体系と取組の体系が同じになるよう、確認する。
136	五藤	第2節 協働のまちづくりを推進するために市民、市職員、学識経験者で構成された附属機関またはそれに準じる市長の諮問機関の早期設置を明記すべきである。これは市民会議の提言書にも「まちづくり市民会議（仮称）の設置」として提言されており、そのような協働の核となるシステムや機関を設立して、その機能を発揮できないと協働のまちづくりは成功しない。例えシステムができあがっても、市民も行政もそれを活かして本気で協働のまちづくりに取り組まなければ成果は上がらないが。 第4次総合計画でも「市民参加のまちづくり」という課題を掲げ、「身近な地域における課題や魅力づくりについて、市民自らが検討・研究に取り組み、市行政への政策提言を実施するなど、それぞれの地域が主体的に地域のことを調整・解決していくことのできるシステムの確立をめざします」と記述されているが、ほとんど何も確立されていないのが実態なので、その反省も含めて市民会議が提言していることをご理解いただきたい。	前回会議での会長のご発言どおり、実際にどのような評価・検証の仕組みをつくっていくかは、いろいろなパターンが考えられ、また、一つの仕組みを導入することで完成形とするのではなく、継続して発展させていくことが必要であることから、「仕組みを構築します」と表現した。
137	五藤	第2節 成果指標の評価・検証の仕組みないしシステムを早急に確立することが重要な課題なので、計画実現のための取組とは節を分けて、 第2節 計画を実現するための取組 第3節 計画の進行管理 または 計画達成度の検証・評価とした方がわかりやすい。 上記の協働の核となる機関は、総合計画の進行管理の役割も果たせるので、そのような機関の設置は第3節に明記しても良い。	計画の進行管理、計画達成度の評価・検証は、計画を実現するための取組の1つと位置付けており、現段階では「成果指標の評価・検証」のところにある内容以上のものではないため、節は分けずにそのままとする。
138	五藤	第2節 基本構想の部分でも述べた通り、現行の行政評価制度とは異なる制度としてイメージできる書き方にすべきである。  3行目以下についても、成果指標だけではなく個別取り組みを含めて総合計画全般の達成度を評価すべきである。	「成果指標の評価・検証」のところの1行目「行政評価制度を活用しながら」という文言を削除した。  評価手法については今後検討していく。

No	発言者	質問・意見	回答
		また、ここでは総合計画だけを対象にしているかもしれないが、あらゆる基本的な計画についても同様の対応を進めることを付記すべきである。 関連計画は非常に多いが、折角計画を立てても、環境の変化や担当者の移動に伴って軽視されたり、実情に合わないまま放置されるケースが散見されるなど、計画を立てた時の意気込みがいつの間にか後退していることが多く、市民などが参画してきっちりフォローする仕組みができていないのは問題である。	「成果指標の評価・検証」のところの1行目に「RPDCAのマネジメントサイクルを行政活動の基本とし」と記述していることから、付記する必要はないと考える。
139	五藤	第2節 情報提供・情報共有の推進 4行目 機会の充実など 機会を増やすなど	ご意見のとおり修正した。
140	高山	第2節 評価・検証する「場」というよりは、もっと総合的なシステムだと思うので、もう一歩進んで「仕組み」という表現に替えていただきたい。	ご意見を受けて、当該部分の文章を修正した。
141	五藤	第2節 イメージ図 市民ニーズを的確に把握できるかどうかは RESEARCH のやり方に負うところが多い。従って、RESEARCH を企画する段階でも市民や学識経験者を参画させるべきである。基本構想 20 ページではそうになっているが。	マネジメントサイクルではRの次にPとなっているが、PLAN、つまり事業の企画立案にはその前提となる RESEARCH の企画も含まれる。説明は PLAN の所に集約した方が見やすいと考える。

#### 【基本計画(案)・第4章】

No	発言者	質問・意見	回答・今後の対応
142	高山	各主体の主な役割の行政の項目の中に、各政策課題全般通じて、協働に関する取組を入れた方がよい。	取組によっては、協働で、というよりも行政が主となって実施するものもあるので、全般通じて入れることは難しいが、協働の推進という視点で取り組めることがないか再検討して、修正できる所はしている。

#### 【基本計画(案)・第5章】

No	発言者	質問・意見	回答・今後の対応
143	高山	「地域別の特性と今後の施策展開」という見出しだが、開発的な課題の特性ということだと思うので、例えばまちづくり開発課題、重点課題、重点施策など、もう少し特定するような表現にしていきたい。	開発的な課題の特性に限定しているわけではないので、変更していない。

No	発言者	質問・意見	回答・今後の対応
144	五藤	第1節(1) 下から2行目 「いずれの地域へも不便でしたが、」は不要？	ご意見のとおり削除した。
145	五藤	第1節(3) 3つ目 森町は計画人口を流入、定着させることが最大の課題であるから、子育て支援策以外にも、魅力あるまちづくりを推進することをもう少し書き込んで？	前回回答したとおり、基盤整備は事業主体である大阪府が施工しており、市が実施できる施策としては、子育て支援策やコミュニティの形成になる。交通の利便性向上などは市全体の取組の一環として取り組んでいく。
146	五藤	第3節(1) 3~4行目 「農地などの自然的な土地利用」という語が専門的に使われているなら問題ないが、後に都市的な土地利用とあるのに対比すれば「田畑など農村的な土地利用」	「農地など田園的な土地利用」と修正した。
147	五藤	第4節(3) 3つ目 「新たなテーマ型組織の融合を図り」というのは5-(2)にある市民活動団体の連携を言っているのだろうが、ここだけを読んだ人にはわかりにくい。	「テーマ型組織」を「市民活動団体」に変更した。

### 【用語解説集】

No	発言者	質問・意見	回答・今後の対応
148	五藤	参画 「自らの意思で」加わることは重要な要件かもしれないが、自らの意思がなくても、他人の要請に応じて加わることもあるので、限定する必要はないと思うが。	ご意見のとおり修正した。
149	五藤	病病連携・病診連携・診診連携 「地域の医療機関(・・・)が多様な疾患の医療を単独で提供するのではなく、お互いに協力し、各医療機関の専門性を生かした連携を図り、・・・」と説明する方がわかりやすい。	ご意見を踏まえ、「地域の医療機関(病院・診療所・医院)が、多様な疾患の医療を単独で提供するのではなく、お互いに協力し、各医療機関の役割や専門性に基づいた連携を図ることで、地域住民が安心できる医療を提供していこうというもの。」に修正した。